

第 1 回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 令和 2 年 6 月 2 6 日（金）午後 7 時 0 0 分～9 時 0 0 分

【出席者】 安藤岳委員、松本大輝委員、松下洋平委員、山本大輔委員、宮地孝夫委員、田頭誠志委員、酒井紀子委員、矢野健一委員、吉川万紀子委員

【行政側】 富田地域振興局長、細川町民生活課長、大元まちづくり推進室長、山本企画課長、畦地町民生活課副課長、杉本地域振興課副課長、水田企画課主幹、谷企画課主事、井口地域振興課主査

【傍聴人】 1 名

【議事及び質疑応答】

※前年度の質問に対する回答として、十和診療所の年齢構成別受診者数および 7 月以降の十和診療所の体制等について、畦地町民生活課副課長から冒頭説明を行った。

（田頭誠志会長）

それでは早速本日の議事へ進めていく。本来なら 3 月 3 日に会議をやって元年度終わる予定だったが、コロナ対策のため延期になった。それより以前に話し合っていた「市街地再生基本構想」をベースにいきなり話を再開させるより、自粛期間中に各委員が感じたことや思ったことをそれぞれに述べてもらう時間を取りたい。

町に対して「こうしてほしい」と思ったことや、こんな状況になったからこそ逆にもっと進められそうな取組がないか、みんなの気づきとしてブレインストーミング（以下、ブレスト）形式でやりたい。イメージとしては、悪かったことを吐き出すというよりも、もっと前向きかつ具体的な動きに繋げていきたい。コロナの第 2 波がいつ来るか分からないので、今回学んだことを活かせるように皆で共有したい。その提案が実現可能か、不可能かは別にして。反対意見は出さないように、他人の意見に自分の考えを被せたり繋げたりは OK。まずは自分が持っている種をばら撒く。発芽するかどうかは分からないが共有が大切。

それと、久々の十和地域まちづくり推進協議会なのでここで改めてこの会議の意味を確認しておきたい。区長会との違いはどこにあるのかを明確に。私は 2 つの大きな違いがあると思う。1 つ目はエリア。区長会は各地区の代表である区長さんで構成されており、その地区から出された要望などを区長が取りまとめ、町とやりとりを行う。つまり自分たちが住んでいるエリア限定。一方、まちづくり推進協議会は十和地域全体のことを協議する場。

もう 1 つの違いは時間軸。区長会は、地区が「現状」困っていることの解決を目指している。しかし、まちづくり推進協議会は将来的な課題に対して長期的な視点を持って話し合う場だと思う。半歩先の町づくりを考えるのが主ではないかと思う。今申し上げた違いでそれぞれの会は棲み分けができと思うし、委員の皆さんとはそういった共通認識を持っておきたい。

それでは、先に申し上げたコロナ自粛中の気づきについてブレストをお願いしたい。なお、この議題に関しては議事録にはしない。（自由な発想でアイデアを出し合う場なので）

— 議論あり（約 5 0 分間） —

— 休憩（1 0 分間） —

（田頭誠志会長）

会議を再開する。まず、前年度の質問に対する回答として、企画課より人工知能を使った診療所の遠隔診療やスマート定住施策について説明をお願いしたい。

※前年度の質問に対する回答として、四万十町のスマート定住施策や通信網整備等について大元まちづくり推進室長から説明を行った。

(松下洋平委員)

AI や ICT 等の技術はお年寄りにこそ、便利に使ってほしいと考えている。自分もスマート定住施策に関して、会議の委員を務めており様々な議論をしている。トライ＆エラーを繰り返しながら、より良いものにしていきたい。

(吉川万紀子委員)

お年寄りは色々忘れやすくなるので、例えば服薬確認だったり、ゴミ出しの日やサロンの日などをそういった技術がサポートしてくれると、暮らしやすくなるのではないかなと思う。

(田頭誠志会長)

ところでスマート定住というのは、どういった意味かもう一度説明してほしい。

(大元まちづくり推進室長)

実はこのスマート定住というのは国の農林水産省の事業で、人口減少が進む農村において担い手の育成や農地の集積、集約化等の農業政策に加え、医療・福祉・教育・交通といった地域に定住するための条件を維持確保する取組を支援するもの。全国の定住条件の確保を実施している事例を収集し支援しており、そのうち農山漁村振興交付金（地域活性化対策）のスマート定住条件強化型のモデル地区に四万十町も選定されている。（モデル地区は全国で 13 自治体）

四万十町では、事業実施主体を「四万十町スマート定住対策協議会」が担っており、さきほどの松下洋平委員もこの委員さんになっていただいている。事業概要として、構想の策定と、実証活動としては SNS を活用した行政・生活情報の提供およびアプリによる農畜産物の販路開拓の実証など。簡単に言うと、暮らしを便利にして定住を目指そう、もっと暮らしやすい町にしよう、という取り組み。

(酒井紀子委員)

お年寄りにも便利さを感じてほしいということなら、スマホ講座とかが必要だと思う。お年寄り同士で参加し、あとで本人同士が教え合うことができれば良いと思う。

(松下洋平委員)

世界中の通信事業者が 5G ネットワークの構築に向けて競い合うなか、海外では健康被害を懸念してインフラ構築に待ったをかける自治体の一部がある。5G の電波が本当に旧来のワイヤレスネットワークよりも人体にとって危険なのかどうか、町民が納得して進められるようにしなければいけないと感じている。

(酒井紀子委員)

個人的には 5G はすごく楽しみだが、例えばスイス政府は 5G 移動通信システムのネットワークの使用停止を命じたと報道にもあった。5G が健康に与える悪影響への懸念が拭えないためと聞いた。5G の電波の影響を評価するための安全基準が間に合わないということだろうか。5G が整備されることによって何ができるようになるか、ということはあまり浸透していないと思う。

(大元まちづくり推進室長)

そのメリットまでは皆、はっきり分かっていない。

(富田地域振興局長)

5G になると通信技術が飛躍的に進化するということは分かるが、4G のままでも別に構わないよという人もいる。たぶん 5G は車の自動運転とか遠隔医療とかそういう面でのメリットの方が大きいのかなと思う。5G エリアも今は限定的。

(田頭誠志会長)

5G が社会に浸透していくと自然になってくる。必要性を感じない、ということには段々ならなくなるだろうと思う。

(大元まちづくり推進室長)

周りから固まっていくものもあるかもしれない。町外から来た人など。町内のニーズがどうか、ということもあるだろうが。

(田頭誠志会長)

都市圏を中心にオンライン授業は十分なりたっているが、田舎にも必要だと思う。

(吉川万紀子委員)

高齢者はスマホを持っていない人もたくさんいる。でも例えば DVD とか CD とか、欲しいと思ったものが（たとえ十和に売ってなくても）すぐに手に入るのならそれは高齢者にとって暮らしの楽しみになると思う。

(松下洋平委員)

アマゾンとかは高齢者には分からない。自分も iPad を持って高齢者の元へ移動販売に行く。例えばこのメーカーの、この醤油が欲しい、というのが見た目でパッと探してあげることができるので取り寄せるにも非常に便利。つまり確実に欲しいものを、すぐに探せる。顧客のニーズにすぐ対応できるということ。

(酒井紀子委員)

松下さんのような人を町内全域に増員できないだろうか。

(田頭誠志会長)

ICT サポーターは絶対に必要。重要なポイントだと思う。

(大元まちづくり推進室長)

このスマート定住施策は、定住している人、つまり今住んでいる人がターゲット。これまで、四十町は移住に力を入れてやってきた。それで一定の人が移り住んでくれたが、じゃあどれだけ町に残ってくれたか。移住と定住はセットで考えなければ意味がない。出ていかない人（定住）を増やす。しっかり残ってもらえるように。農業だったら普及員が居る。スマート定住にも支援をしてくれる人は必要だと思う。

(矢野健一委員)

定住を考えたときに思うのは、若年層の賃金の低さ。結婚して2人の暮らしになっても生活が苦しい人たちがいる。根本的に、所得を向上させるにはどうしたら良いのか、そういう支援を考えていないと。高齢者への手厚い支援はあっても、あまり若年層への支援は聞かない。若い子たちに投資を、と思う。

(田頭誠志会長)

若い人たちの力は必要不可欠。

(矢野健一委員)

最低限、生活できるレベルまで所得を上げることを政策に。

(田頭誠志会長)

はい、それでは時間も迫ってきているので次の議題に移る。前年度の振り返りと、今年度の協議内容について。事務局から説明をお願いします。

(杉本地域振興課副課長)

レジュメの 17～18 ページをご覧ください。昨年度、この協議会で出された意見をまとめたもの。いずれも市街地再生基本構想のゾーンごとに整理をしたが、この中で今年度、特に興味深く、

事務局としても議論の深堀をしてほしいと思うものを検討させていただいた。それが、事務局という欄に二重丸が書かれている箇所。一つ目は、十川エリアの商店街振興ゾーンで、十和地域の商業に的を絞ったインターンシップ事業。二つ目は、教育・保育推進ゾーンの小鳩保育所の跡地利用案について。三つ目は、昭和エリアのアウトドア・交流促進ゾーンの交流センター活用促進案について。

いずれも重要だと感じたし、できることなら全て議論してほしいという想いはあるが、今年度も町長まで意見書を提出しようとする、今期の委員さんたちの任期が9月末までなのでそれまでに意見をまとめていく必要がある。事務局としては、9月末までにあと2～3回会合を持ちたいと考えているが、3つの議題をこの回数でまとめ上げるのは時間的に厳しいものがある。そこで、1つか2つに絞り、意見書提出まで持って行けたらと考えている。事務局としては、まずは商店街振興ゾーンのテーマはどうかと考える。冒頭に田頭会長の話にもあったように、このまちづくり推進協議会の目的に照らし合わせて考えると、十和地域全体の課題でもあり、なおかつ自分たちの生活に密着したテーマの方がより身近に議論ができるのではないかと思う。この十和に必要な不可欠なお店が、店主の高齢化で存続危機になっている場所がある。どうすれば、事業継承ができるのか。また、地域に買い物難民を生まないために今何ができるのか。そのあたりのことは、まさに生活密着型のテーマでは。

(田頭誠志会長)

はい、事務局からこのように提案があった。非常に分かりやすく、身近なだけに議論しやすいテーマであるように思う。次回の会はこの提案に沿った形で進めてよろしいか。時間が許せば、小鳩保育所の跡地利用案についても再度協議できたらと思う。

※委員一同、異論なし

(田頭誠志会長)

それでは時間になったので、今日はこれで終わりとする。次回もよろしくお願いいたします。

— 終 了 —